

日出生台での8回目の米軍訓練を前に

ローカルネット大分・
日出生台 浦田 龍次



No.194号
2011年1月28日
発行人 宮崎 優子
事務局 日高 礼子
☎ 097-545-3134
FAX 097-545-3134

日出生台での8回目の米軍訓練を目前にした1月19日、北沢防衛大臣が日出生台に視察にやって来た。96年の米軍演習移転決定以来16年、防衛のトップが日出生台にやってきたのは初めてのこと。マスコミから米軍普天間基地の訓練移転との関連を尋ねられた大臣はその関連性を否定した。しかし、「永続的に基地の運用をしていく上では大変有意義だと思」と軍事優先姿勢も露骨なコメントを残してへりで去っていった。なぜ今この時期に、北沢防衛大臣は日出生台にやってきたのか。

8回目の日出生台での米軍訓練の開始を前に、今一度、これまでの状況を整理してみたい。初日から6回目の訓練まで、米軍は155ミリりゅう弾砲のみ、その1種類しか実弾演習を行うことができなかった。しかし、昨年、7回目の訓練において、その制限はついに突破され、155ミリりゅう弾砲以外の、小銃、機関銃など、ありとあらゆる武器を使用した訓練が可能となった。(これは日出生台だけでなく、他の4ヶ所の本土移転地でも同様だ)米軍は、武器の種類を制限されることなく、また、実弾を使用するか否かの制限もなく、本土5ヶ所の演習場を使って、やりたい訓練を自由にやれるようになるうとしていく。

そして、今、取りざたされている普天間基地移転問題。武器の制限を取っ払うことに成功した米軍は、今度は、訓練部隊の制限をも取り払おうとしているようだ。これまでの本土5ヶ所での移転訓練は、キャンプハンセンで155ミリの訓練を行っていた部隊「第12海兵連隊第3大隊」がやってきていたわけだが、これがさらに普天間基地の米軍部隊も訓練するようになることになれば、実施部隊の制限までもが取り払われることになる。

昨年の訓練では、小銃、機関銃の訓練が追加されただけではなく、日出生台では初めて、白リン弾、照明弾も使用された。さらにその後には3回(公式は2回)の火災が発生。この火災も過去6回の訓練では一度も発生したことはなかった。いかにこれまでとは違う、異様な訓練が実施されたかを物語っている。

それにしても、この状況下においても米軍訓練を「拡大ではない」と言い切る大分県の姿勢には(毎年のごときではあるが)啞然とするばかりだ。しかし、現実

赤とんぼの会
春の総会
4月10日(日)13:00~
大分市ライブパル
2階会議室(5番街)
今年の意見広告について話し合います。お待ちしております。

行います。

演習開始予定日とされている2月7日の午後6時から「ピースキャンドル」を行い、畑に並べた約500本のろうそくでメッセージを作ります。準備は4時半くらいからやっています。

監視活動、激励、視察、ボランティア、寄付、すべて大歓迎です。活動の資金を捻出するための「日出生台・平和の一筆箋」も新しいものを作りました。お問い合わせ、ご購入いただける方は、0977-8515003までファックス、またはkarappa@oct.net.jpまでメールをください。

2月5日(土) 12:45~
第14回 許すな!憲法改悪・市民運動
全国交流集会in大分&日出生台
"沖縄・日出生台から日本の今が見える"
場所) 大分市コンパルホール4F
アートルーム
講師) 高良鉄美(琉球大学法科大学院長)
「沖縄からみた平和憲法、日米安保」
参加費) 500円

2月6日(日) 12:30~
日出生台ゲート前集会
(草の根会主催)
天候など考え、11:30
由布院見成寺集合

読売その後

昨年の意見広告での読売新聞の問題について宮崎優子さんが、東京の市民の意見30の会発行『市民の意見』No.123（2010/12/1）に掲載した文章から抜粋しました。

読売新聞が検閲？

◆意見広告にクレームが入る！

今年、28回目の意見広告で前代未聞の事件が起こりました。私たちがとって事件としか言いようがないのですが、読売新聞西部本社 of 広告審査部からクレームが入ったのです。それも広告社を通して。クレームがついたのは、意見広告の一番下に書かれた文書の中味でした。最初は三か所。「上官の命令で捕虜を銃殺した」「海外メディアは『ソマリア沖の海賊問題を受け、紅海沿岸のジブチ共和国で日本の海上自衛隊基地建設が着工される』と報じています」「ゲーツ米国防長官が6月中旬に在沖繩海兵隊のグアム移転をめくり、日本に経費負担の増額を要求」とい

う二つの部分でした。捕虜を銃殺したというのは新聞広告として刺激的すぎるという理由。後の2カ所は国内で報道されていないという理由でした。愚かなことを！マスコミに携わる人とは思えない恥ずかしいクレームです。捕虜を銃殺したのは事実なのです。刺激的という言葉で切り捨てることはできません。

グアム移転費増額の記事は大部分合同新聞の一面トップで大きく報道されていました。読売新聞は報道しなかったのでしょうか？ジブチの自衛隊基地については、外務省に電話をすればきちんと答えてくれます。海外メディアは「基地」と報じていますが、外務省は自衛隊の「根拠地」という言い方で事実を説明します。

◆広告って何？

報道人ならば、クレームをつける前に電話一本でわかることを何故調べないのでしょうか？（私たちも後でわかったのですが毎日、朝日は報道していました）結局最後まで納得してもらえず、捕虜の箇所は「・・・」。ジブチの箇所は白紙で掲載になりました。読売掲載拒否も考えたのですが、読売

を購読している広告主のこともあり苦しい選択をしました。

そもそも広告って何なんでしよう。新聞の一面を私たちは契約をして買い取ります。私たちは広告主です。買い取った一面は自由に使えるはずですが、私たちの場合は憲法九条をアピールする。他にも毎日広告は溢れています。健康食品。原子力発電。書籍。電化製品。読売広告審査部は何を根拠に広告にクレームをつけるのか、納得できません。

◆読売新聞本社に公開質問状を

読売新聞西部本社に公開質問状をだしました。回答はきました。広告審査基準なるものがあるのだそうです。が、中味については触れていません。審査基準があるのなら、この箇所に触れるので、とか説明があつてしかるべきと思うのですが、「広告審査基準とはどんなものか説明してほしい」と再質問状を出しましたが、前回と全く同じ内容の回答でした。

がっかりしました。これが日本一の発行部数を誇る大新聞社のやり方なのか、言論の自由、表現の自由を体を張って守らなければならぬマスコミの姿なのか、全く

2010年度 赤とんぼ意見広告 会計報告

収入 意見広告募金総額 3,088,356円 (2,893人)
支出

項目	金額	備考
広告料	3,058,500	合同、朝日、読売、毎日、西日本
印刷費	64,870	チラシ封筒印刷代、コピー、インク代
会議費	5,746	コンパル使用料等
交通費	15,380	世話人会、デザイン会議、校正等
通信費	4,000	県外賛同者へ新聞送付、ハガキ代等
事務費	1,268	収入印紙、封筒代
家賃	12,000	みんなの家6月～9月まで
読売関係	11,280	内容証明送付料、弁護士相談料、等
合計	3,173,044	

収入 3,088,356円
支出 3,173,044円
残金 -84,688円
不足分は会費会計より

やり切れない思いです。私たちの必死の意見広告を穴あきにして掲載した8月15日の編集手帳（読売一面）にはこう書かれていました。『（前略）暗号のような替え歌や俳句でしかありのままの心情を語れない時代があったことを、言論の末席に連なる者として忘れまい。鎮魂と慰霊の日は、「声」の無事を確認する日でもある。』

（みやざき・ゆうこ、赤とんぼの会）

5月3日

全国市民意見広告のよびかけ
チラシを同封しました。

事務局より



お便り紹介

読売新聞社の事件、大変でしたね。本当にご苦労さまでした。銃殺したが……に変更とは……やはりメディアとして新聞は事実が事実として当然書くべきだと思います。新聞は長い歴史の中で人間の愚かさや人間の悪は「戦争」であることを骨の髄まで承知のはずだと思えます。7・8年前、当時の国東

中学校3年生が修学旅行で大阪の人権博物館を見学し従軍慰安婦について詳しく調べた様です。その見学体験「従軍慰安婦問題について」がその頃の広報にのせてありました。中学生でも戦争の事実は事実として考えているのですからましてやメディアとしての読売新聞社にはきびしい反省の資料として差し上げたい。そう私は思いました。(国東市 TMさんより)

こんな詩見つけました

駄獣の群

与謝野晶子

ああ、此の国の怖るべく且つ醜き議会の心理を知らずして、衆議院の建物を見上ぐるなかれ。禍なるかな、此処に入る者は悉く変性す。たとえば悪貨の多き国に入れば大英国の金貨も七日にて鏽にて削り取られ其の正しき目方を減ずる如く、一たび此の門を跨げば良心と徳と理性との平衡を失わずして人は此処に在り難し。見よ、此処は最も無知なる、最も悖徳なる、はた最も卑劣不作法なる野人本位を以て人の価値を最も粗悪に平均する処なり。此処に在る者は民衆を代表せずして私党を樹て、人類の愛を思わずして動物の利己を計り、公論の代わりに私語と怒号と罵声とを交換す。此処にして彼等の勝つは固より正義にも、聡明にも大胆にも雄弁にもあらず、唯だ彼等互に阿附し、模倣し、妥協し、屈従して、政権と黄金とを荷ふ多数の駄獣とみずから変性するにあり。彼等を選挙したるは誰か、彼等を寛容しつつあるのは誰か。此の国の憲法は彼等を逐ふ力なし、まして選挙権なきわれわれ大多数の貧しき平民の力にては……かくして、年毎に、われわれの正義と愛、われわれの血と汗、われわれの自由と幸福は最も醜き彼等駄獣の群に寝蓐の如く踏みにじられる……

(1915年12月12日 讀賣新聞掲載)

日本が他国を侵略する野望と軍閥景気に沸く第一次大戦下、こんな詩を載せた当時の讀賣新聞、すごい!

更に、読売の問題について、『週刊金曜日』819号(2010年10月15日)に掲載された記事から抜粋します。

今年も二八九二人から広告費が集まり、準備を進めている最中、異変が起きた。読売新聞社西部本社社の広告審査部からクレームが入ったというのだ。少し長くなるが同会の会報から引用する。

一部白紙の意見広告を掲載させた『読売』の見解

8月12日の昼頃、読売の広告社より広告デザイン下部枠内の文章2カ所について、その根拠の問い合わせがありました。夕方になって再び広告社からの連絡。2カ所をなんとかしないと新聞に掲載できないと読売新聞(西部本社)の広告審査部が言っている。その2カ所は海外メディア情報の部分(理由は国内で報道

されていないことだからだとか)それと、戦争体験者の言葉で「上官の命令で捕虜を銃殺した。」という部分(理由は、新聞広告に出すには刺激的すぎるからだとか)「赤とんぼの会」はぎりぎりまで交渉したが、『読売』の態度は変わらなかったという。広告掲載を止める案も出たが、広告費を出してくれたい

分を白紙にしたり、「・・・」で表記したりして広告を掲載した。すべて削って白紙となったのは次の表現だった。*海外メディア(AFP、ザ・ボイス・オブ・ロシア、新華社、UPIなど)は、「ソマリア沖の海賊問題を受け、紅海沿岸のジブチ共和国で日本の海上自衛隊基地建設が着工される。」

と報じています。<「捕虜を銃殺した」は、「捕虜を……」に替えられた。これらは『読売』以外の四紙には問題なく掲載されている。しかも、「拠点」という表現だが、海自がジブチに約四〇億円をかけて自前の施設(基地)を整備することは七月中旬に『朝日』『毎日』が報じているのだ。

前出の宮崎さんは「とにかくビツクリしました。今の世の中でマスコミから検閲まがいのことを受けるとは思ってもよらない。あせんとしました」と話している。読売新聞社西部本社からは、社内手続きに時間がかかるため期日までの回答は無理、と回答があった。回答が寄せられた段階で、なんらかの形で再報告したい。メディア取材班

でんでん虫のねごと



「一月十一日」今日は鏡開き、夕飯の配食サービスにおぜんざいがついていた。おいしくて嬉しかった。改めておくれればせながら、新年おめでとございませう。といつてあまり目度い話もないけれど、さて、ジャバン・シンドロームという話がある。老人が多くて若い人子供が少ないという現象。世界中の風潮なのだが特に日本にはこの現象が激しいという。そういうばいに行っても老人ばかりだなあと思う。オバアサンたちは結構肩身せまく生きてるのだが、別れには「じゃあ転ばないように、風邪引かないように平均まで(86才?)頑張りましょうとお互に元気づけながら別れる。老人ばかりで介護の手が足りなくてやがてはロボット介護人のお世話になる時代も近いという。せめてそうならないように歩いたり運動することが大事だといふけれど、そうすればますます元気になって長生きするのではないかしらと心配になる。長生きってそんなに魅力的で

はない。
ランドセル運動

あっちこっちの施設などにランドセルが送られていってさうだ。タイガーマスクの伊達直人という送り主で、ランドセルや文具や現金が届(と)けられてる。やがて満開の桜の下とびはねながらランドセルを背負ってゆくピカピカの一年生に、幸あれ。一方、国のまわりはと見れば、中国・韓国・北朝鮮・アメリカそして日本と決しておだやかではない。北方領土、尖閣諸島と緊迫した空気が続く。

娘と孫(高2)と私、私は詠み手なのだがすっかり目が悪くなって、絵札の仮名が読みにくくたどたどしい。以前なら読み始めると覚えていてすらすらと出てきたものだが、全くはがゆい。さてこの真剣勝負、五十路の娘はコテンパンに負けてくやしがり、私は久しぶりに声を出して楽しかった。
暑さがきびしかった分寒さもきびしいのか、寒さがこたえます。どうか、おすこやかにお過ごし下さい。(み)

5月3日 憲法講演会

時間 10:00~
(入場無料)

〈場所〉大分県教育会館
〈講師〉内河 恵 一さん
(イラク派兵違憲名古屋高裁訴訟弁護団長)
〈主催〉平和憲法を守る会・大分ほか
〈連絡〉097(534)3436(古田)

名もなきひとむれ
歩きます
5月3日13:30~
大分駅噴水前

『宗教者が語る戦争と平和』

講師) 無着成恭
佐々木淳二 (大分メノナイトキリスト教会)
日野 詢城 (浄土真宗大谷派見成寺)
日時) 3月5日(土)14:00~16:00
場所) 大分文化会館 第2小ホール
参加費) 無料
主催) 大分県弁護士会
連絡) 0979-26-0300 (西畑)
097-537-3344 (亀井)

学び、行動する市民の運動へ 市民連絡会おおいた 記念講演会

日時) 3月12日(土)13:30~
場所) コンパル 視聴覚室
講師) 北村 肇 さん
(株式会社金曜日社長、
元「週刊金曜日」編集長)
連絡先) 池田(090-4583-8797)

声に出して読んでみましよう憲法九条

『戦争の放棄、戦力の不保持・交戦権否認』
①日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段として、永久にこれを放棄する。
②前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

赤とんぼの会事務局 〒八七〇〇八五五 大分市豊饒四組 みんなの家
TEL・FAX) 097(545)3134 (郵便振込) 0154010112160
(ホームページ) <http://aka-tombo.com/> <X> aka-tombo@hotmail.co.jp

崔チェ・ソンエ 善愛 ピアノ&トークのつどい 父とショパンとわたし

遠いショパンのうたが自分の悲しみのように響くとき、わたしは、人と人はわかりあうことができるはずだとも一度、思う。いま、ショパンの音楽は日本中で、世界中で、愛され演奏されている。ショパンの音楽を愛するように、アジアの人びとを愛したい。それは、国を奪われたもののもつ悲しみに気づくということ、ショパンは、それを訴えている。 自著「父とショパン」より

日時) 3月20日(日)13:00開場 13:30開演
場所) コンパルホール・文化ホール
入場料) 全席1,200円
問い合わせ TEL・FAX 097-534-6116 (しまだ)



久しぶりの大雪に、犬ならぬ我家の男子は外に飛び出していきました?(は皆さん総会に来て下さいネ。